

飛驒山脈ジオパーク構想ジオサイト(第27章)

奥飛驒温泉郷(その3)

今から三百年ほど前に書かれた「飛州志」という地誌(風土記)があります。この書は、時の將軍徳川吉宗の命を請け、飛驒国第7代の長谷川忠崇代官によって編纂されました。ここには、飛驒の温泉6カ所が書かれています。

その中に、平湯温泉と蒲田温泉の記述があります。両温泉とも「往古湧出由来未詳」すなわち大昔から湧いているが、その始まりは分からないとあります。

続けて、両温泉に古くから伝わる「平湯記」「蒲田記」が引用されています。このうち蒲田記の末尾には「按ずるに飛州の隠士幽嘯軒守朱子誌す所なり」とあります。この守朱子という人は、金森藩の儒医(儒学者兼医師)であった角田享庵の号です。この蒲田記には、角田享庵の母親の腕が痛むので高山から蒲田温泉へ湯治に出かけたことや、熱湯を吹き出している地獄という所へ出かけたことが書かれています。また、村人から聞いたと思われる蒲田温泉の始まりを天正年間(16世紀後半)ではないかとも書かれています。

なお、蒲田記原本の末尾には、「延宝丁巳(1677年)夏五月幽嘯軒守朱子誌落款」とあり、今から340年以上も前に書かれた事がわかります。

また、平湯記についても「以上由来不詳疑らくは朱朱子の記するものか」とあり蒲田記と同一人物によって書かれたものであろうといっています。この温泉記にもその濫觴、湯治方法や優れた効能が詳しく書かれ、驪山靈泉や有馬神湯に匹敵する名湯であると絶賛しています。そして、大地(ジオ)からの恵み温泉を多くの人々に享受してもらいたいと結んでいます。



(飛驒地学研究会 下畑五夫)

平成29年から連載していましたジオサイト紹介は、今回をもって終了いたします。

今後は、ホームページに掲載しますので、ご覧ください。

飛驒山脈ジオパーク推進協議会 <https://hidageo.com/>

問合 飛驒山脈ジオパーク推進協議会 ☎0578-84-0038